

(令和3年度)
学校自己評価書

園番号	園名
718	学園南こども園

718学園南こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標の達成を目指し、年間計画を作成し、教育課程の評価をする。 教育ビジョンの「子どもの伸ばしたい力」を具体的にし、保育内容を想像する。 保護者アンケートを実施し、教育活動の検証をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な計画を作成し、保育をどのように展開していくか職員全体で検討し、取り組み、定期的な会議等において評価・反省を行った。 感染症対策を行った中で保育内容の見直し、園内外の環境を整えていくことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえての計画を立てるようにした。内容や環境の工夫をしながら、目標に沿って取り組んでいた。 アンケートから、教育活動全般について、良い評価をいただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標を共通理解し、どのような教育活動をしていくのか、今年度の教育課程を確認しながら次年度に応じた計画を作成していく。 園の課題や問題については、全職員で協議し、検討していく
		② 教育計画の作成					
		③ 教育課程の編成					
		④ 教育活動の評価					
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿を細かくとらえ、興味や関心と発達段階を押さえながら指導計画を立案していく。 保育者間の連携を密にとり(クラス担任・長時間担当)環境構成や援助の仕方を具体的にしていく。 園の研究主題を理解し、これに基づいた保育内容や環境を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題について、各年齢の取り組みを出し合ったり今後の課題等の意見交流会を行った。 担任や長時間担当とが同じ方向で進めていけるように話し合う機会をもった。 年齢会議や長時間担当会議など、保育者間の連携を高める会議を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担任や長時間担当との話し合う機会を持つようにしたが、子どもとの関わりの中でいかせているのかを振り返り話し合う場が必要である。 各年齢やクラスでの会議を定期的に持つことで、共通理解や保育内容の確認ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の姿から、指導方法を検討していく。 自らの指導や過程を振り返り、次年度に繋げられるようにしていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策をとった中で、子どもが感動でき、子どもの成長とつながり、保護者にも毎日の保育内容が理解していただけるものを計画する。 園内だけでなく、地域とつながりの持てるようなものにしていく。 計画性を持ち、多くの職員が行事に向かって協力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受けて、各行事の目的やねらいに沿って取り組みを大切にできた。 地域の方に作品展を通して、子どもの表現する姿や園の取り組みを知ってもらえる機会となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策をふまえて、行事に向けて細かい部分まで話し合いを持ち、子どもの動きを考えながら安全に進めることができた。 子ども達が生き生きと楽しく参加していた。 域の方の参加がしていただきに良かった。広報活動が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を考えたものと緩和できる場合との両方で行事を見直し、取り組み方を考えていく。子ども達にとって豊かな経験ができるようにする。 地域の方に、園の取り組みを知り、広げていけるように 広報活動の具体化し工夫をしていく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 自分も友達も好きになるこどもを目指すこども像に据え、保護者にも働きかけながら、ひとりひとりの思いを受け止め、自己肯定感を育めるようにしていく。 「平和について考える期間」を通して、命の大切さを知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事のドキュメンテーションやおたよりを通して、保育のねらいや子どもの成長・頑張りや伝え、子ども達を受け止めたり、認めたりできる機会を大切にできた。 保護者から子ども達へのメッセージ(子どもが笑顔になる瞬間)を集め掲示した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の関わりの中で、自分が大切にされている存在であるという気持ちから友達に対して優しくする気持ちが育っている。 職員間での思いやりや周りの環境に対しての気づき等はどうかであったか 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性についても保護者と共に理解し、その子のありのままを認めていけるようにする。 子どもがえの笑顔になる瞬間を保育の中で増やしていくためには、何が必要かを考えていきたい。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 保育者チェックリストで自分の仕事を振り返る。 一人一人をよく観察し、その子の特性を探る 保護者の状況を把握し、思いを受け止めていく。 状況を細かく把握し、適切な機会に連携していく 対処方針や指導計画が明確である 日頃より実態把握・早期発見に努めている 各学級の状況を園組織として共有できている 保護者や地域と連携できている 組織的に迅速に対応する体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に情報交換に努め、小さな問題でも、全職員の問題として捉え、共有し全体で取り組むようにした。 特性を捉えながら適切に相談につなぐことができた 保護者に応じて個別的の丁寧な対応をしてきた 家庭支援推進保育士が、家庭状況を把握し各年齢の保育者と共に、保護者と関わる適切な機会やかかわり方を考えてきた。 友達や仲間を大切に作る絵本やお話などを保育内容に取り入れている。 小学校との情報を共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要と思われる子どもに対して、保護者と人間関係を築きながら、就学を見据えて相談等につないでいる。 各関係機関への資料も具体的にまとめることができた。 毎月の要保護児童対策地域協議会の資料を確認し、状態の把や課題の絞り込みができ適切に対応できた。 保護者アンケートから、子育てについて気軽に相談できるの意見を頂けた。 素早い対応や家庭との連携、職員間の連携の大切さを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の思いに沿いながら共に子ども理解を深めていく。 日頃から子どもの様子を伝える工夫が必要である。 家庭訪問や個人懇談など、個別の対応の機会を適切に持つようにする 保護者との信頼関係を築き、適切な機会をとらえて支援をしていく。 保護者や子どもに集団におけるルールや道徳心など身に付けるべきことを知らせていく。
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 家庭支援推進保育士、クラス担任、特別支援コーディネーターと連携し、保護者の子ども理解が無理なく行えるようにする。 特別支援研修の研修報告を通して、スキルアップをはかっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターや家庭推進保育教育士、担任で子どもの実態を共有し、連携をもった。 保護者との日々の関わりから信頼関係を深め、個人懇談や相談の機会を持ち、子どもの特性を保護者に伝えることができた。 就学を見据え、各年齢に応じた支援の方法で関わり、個別の指導計画や日々の観察記録を大切に 	A	<ul style="list-style-type: none"> 観察後や園巡回後のカンファレンスにおいて、特性に応じた支援の方法や適切な指導目標をあげる。 支援の必要な園児数が多い中、集団での関わりや教育方法を工夫できていたか。 個別の指導計画を立て、一人一人の課題を明確にし、丁寧な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察後や園巡回後のカンファレンスにおいて、特性に応じた支援の方法や適切な指導目標をあげていく。 集団の中での一人一人に対してへの言葉かけの仕方の見直し。 個別の指導計画を立て、一人一人の課題を明確にし、丁寧な支援を行う。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
		③ 指導方法の工夫改善					
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和3年度)
学校自己評価書

園番号	園名
718	学園南こども園

718学園南こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・カリキュラム会議、職員会議、学習会を効率的に進めていく ・子どもの実態や情報を職員間で共有し合う ・職員の公務文書を適切に処理していく ・職員の質の向上に努める ・職員の状況を把握し、連携が密になるよう環境づくりに努める。	・職員の自己能力を発揮しながら、教育や園運営に取り組めるように働きかけた。 ・毎朝の朝礼において子どもや職員の健康状態を確認し、各クラスの報告・連絡・相談を密にしてきた。 ・時差勤務と職員数が多いため、連絡が届きにくいことがあるので、チェック欄を作る等して共通理解できるように工夫した。 ・業務に優先順位をつけ、職員間で助け合うように声掛けをし、時間外業務にならないように努めた。減少できた。	B	・1日を通しての保育の流れが途切れないよう、個別の連絡や連絡掲示などを工夫していく ・年齢会議を大切にとらえ、横の関係をもちながら運営していく。 ・同じ職員の意見の偏りが無いかを振り返る。 ・目標や方向性を明確にし園運営がスムーズに行えるようにする。	・1日を通しての保育の流れが途切れないよう、個別の連絡や連絡掲示などを工夫していく ・年齢会議を大切にとらえ、横の繋がりをもち、1日の流れを考えて運営していく。 ・職員の様々な意見が出しやすい環境作りの必要性。 ・目標や方向性を明確にし園運営がスムーズに行えるようにする。
		② 園経営目標・方針			A		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			A		
		④ 園務分掌等の連携			B		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			B		
		⑥ 会議の結果			A		
		⑦ 職場の人間関係			C		
		⑧ 園評価の実施			A		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	・研究主題について学びながら、教育ビジョンを共通理解をし、保育実践を行っていく。 ・各研修会に参加する。 ・各種研修の報告の機会を設けたり、各年齢の園内公開保育を行い、保育の振り返りをしながら日々の保育を深めていく。	・リモート研修参加ができたが広める機会が持ちにくかった。 ・職員間で、今までの取り組みを見直したり、学んできたことを広げ、保育にいかせるようにした。 ・教育ビジョンを確認しながら保育の振り返りができた。 ・研修の報告をするにあたり、研修内容をまとめたり自らの保育の振り返りができていた。 ・特別保育期間中では、環境を見直したり、保育内容の研究を行った	B	・研修に参加できる体制を作っている、その後の報告ができ高められる機会を作っていく。 ・研究主題について、すすめていける体制づくりをしていく。	・研修に参加できる体制を作っている、その後の報告ができ高められる機会を作っていく。 ・研究主題について、すすめていける体制づくりをしていく。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			B		
		③ 園外の研修への積極的参加			B		
		④ 園外研修内容の報告や伝達			A		
		⑤ 研修成果の普及			B		
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	・安全マニュアルに沿って安全な計画、防災計画を作成し、迅速かつ適切な対応ができるよう、緊急時の連絡体制を整える。 ・子どもを事故、災害、不審者から守り、生命と健康を維持する。	・毎月、避難訓練Wを実施し、防災意識を高めた ・防災訓練は、予告なしで実施したことで、様々な状況や課題を見出すことができた。 ・防災担当が集まり、職員の行動等の確認ができた。 ・繰り返すことで、防災ずきんの使用にも慣れてきた。 ・不審者対策のため、保護者への保護者証の	A	・保護者アンケート「園舎内や園庭の施設設備などの環境整備や安全管理を十分に行うよう努めていますか」の問いに肯定された方が多かった。 ・避難訓練を積み重ねることで、防災意識を高めることができたか。	・職員の危機管理に対する共通理解と意識の向上に努める。 ・様々な災害についての、避難方法や職員の位置、連絡方法等を繰り返し確認することで意識を高める。
		② 防災計画の立案			A		
		③ 危機管理体制の整備			A		
		④ 安全指導の工夫改善			A		
		⑤ 家庭との連携			A		
		⑥ 関係機関との連携			A		
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	・幼児や保護者が健康に関心を持ち、健康を保持増進していける力をうけていく。 ・菜園活動から食育につなげ、栄養面や衛生面に興味を持てるようにする。 ・感染症マニュアルに基づき、園児の健康管理及び施設の感染防止体制を整える。	・新型コロナウイルス感染症の知識や実態の把握をし、消毒、手洗い、換気を徹底した。 ・感染症対策への声掛けを定期的に伝え、意識を高く持つようにした。 ・ほけんだよりで健康に視点を置いた生活習慣が身につくように幼児や園児に知らせた。	A	・新型コロナウイルス感染症対策が徹底され、毎日の健康状態を把握しているか。 ・感染症対策を自ら意識を持ち行っていたか。 ・室内の換気を徹底した。 ・マニュアルの周知と点検を行い健全な身体の育成に向け配慮できているか	・衛生管理マニュアルに基づいた管理と安全な食の提供を行う。 ・感染症対策、食事の衛生面、アレルギー対応について危機管理意識をもって適正に行う。 ・定期的にチェックリストで確認する。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備			A		
③ 健康観察、健康管理能力の育成		A					
④ 関係機関との連携		A					
⑤ 昼食の衛生管理		A					
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	・地域教育協議会の会議を通して中学校区の幼稚園・こども園・小学校・中学校・地域の団体と情報交換し、連携を深めていく。 ・地域で決める学校予算事業の地域の方との活動を通して子ども達が豊かな経験をし、それぞれの世界をひろげていけるようにする。	・コロナ対策の為、実際園庭環境整備・読み聞かせ・野菜栽培・稲作・運動あそび・幼小交流・運動会・防災教育等、様々な事業を通して、 ・地域の会議や行事に参加したり、園だよりを地域の方に届けたりする中で、こども園のことを広報することができた。	B	・感染症対策のため、参加して頂く機会は少なかったが、ホームページや保護者アンケート等を通して、取り組みを知って頂けた。 ・評議委員会を実施し、園児の様子や園の取り組みに対して良い評価をいただいた。	・地域の方々とのふれあいの機会に感想や活動に対する助言をもとめたりして、第三者の意見を職員会議の内容に盛り込み、地域との連携をより良いものとしていく。 ・広報活動を具体化していく。	
	② 園(保育)公開			B			
	③ 小学校との接続・連携			B			
	④ こ幼保との連携			B			
	⑤ P T Aの活性化			A			
	⑥ 地域教育協議会との連携			A			
	⑦ 学校関係者評価の実施			A			
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	・子どもが安全かつ安心して過ごせるように環境の整備に努める。 ・感染症対策で使用の制限を行った。	・園内を美しくするよう清掃活動や環境整備に努めた ・危機管理意識を持って、消毒等や安全点検を行い子ども達が安全安心して過ごせるようにした。	A	・保護者アンケートで園舎内や園庭の施設設備などの環境整備や安全管理に対しては肯定的だったが、階段の清掃の不十分さの意見があった。	・清潔に保たれているかに気付いていく。 ・常に安全に遊べる環境であるために職員がリスク意識を持って点検を行う	
	② 施設設備の有効利用			A			
	③ 施設設備の管理			A			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	・個人情報の保護ができているか、絶えず確認していく。 ・個人情報の取り扱いについては、奈良市情報セキュリティポリシーに基づいて厳重に取り扱う。	・個人情報の漏洩、記録媒体の紛失がおこらないように、細心の注意をはらった。 ・各書類等の管理を徹底した。 ・写真の撮影の取り扱いに気をつけた。	A	・公文書、個人情報の取り扱いについては、全職員が適切に処理できていたか。 ・子どものプライバシーが守られているか。	・個人情報の管理方法や管理体制を職員全体で共通理解し、危機管理意識を高める。	
	② 公文書の作成			A			
	③ 個人情報の管理・保護			A			
	④ 情報の収集			A			